



HEMS認証支援センター(ECHONET Lite)の活動紹介と今後への期待

2013年6月21日

神奈川工科大学 工学教育研究推進機構

スマートハウス研究センター
センター長 一色正男



自己紹介:私(一色正男)のミッション

スマートハウス・HEMSの普及拡大を目的として、住宅機器の技術実証や、教育などを含めたさまざまな支援を行っています

【経済産業省 スマートハウス国際標準化研究事業/H23年度より】



神奈川工科大学
ホームエレクトロニクス学科 教授
慶應義塾大学
政策・メディア研究科 特任教授
HEMS認証支援センター センター長
Site Manager for W3C/Keio
経済産業省HEMSタスクフォース座長

3つのテーマを中心に活動

- 1) Echonet Lite相互接続環境(認証支援センター)の整備
- 2) 新規参入事業者向けのHEMS開発支援キットの開発
- 3) 安全性等を考慮したHEMS及び接続機器の運用ルールガイドラインの策定支援



本日のアジェンダ

- 1.はじめに(スマートハウスとECHONET Lite)
- 2.ECHONET Liteの現状
- 3.HEMS認証支援センターの取り組み
－ECHONET Lite ミドルウェア開発者様への期待－
- 4.最後に(これからのスマートハウス)

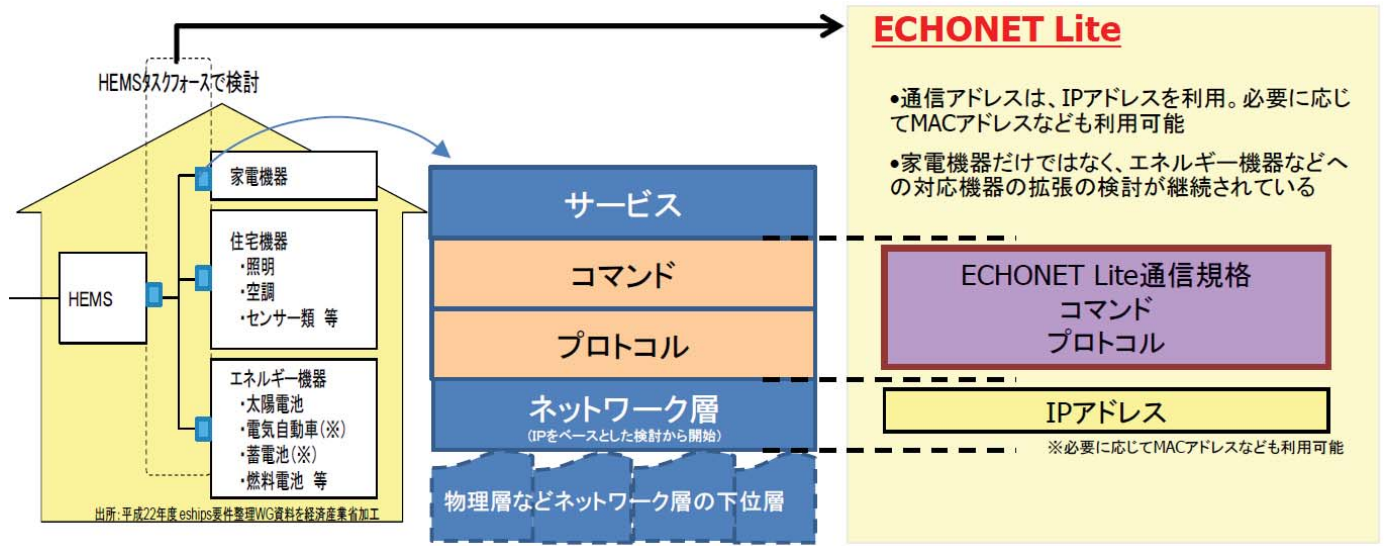


- 1.はじめに(スマートハウスとECHONET Lite)
- 2.ECHONET Liteの現状
- 3.HEMS認証支援センターの取り組み
－ECHONET Lite ミドルウェア開発者様への期待－
- 4.最後に(これからのスマートハウス)



HEMSの公知な標準インターフェイス

平成24年2月、経済産業省が、ECHONET Liteが
HEMSにおける公知な標準インターフェイスとして推奨。



出所:スマートハウス標準化検討委員会 中間取りまとめ(案)より
<http://www.meti.go.jp/press/2011/02/20120224007/20120224007-2.pdf>



1.はじめに(スマートハウスとECHONET Lite)

2.ECHONET Liteの現状

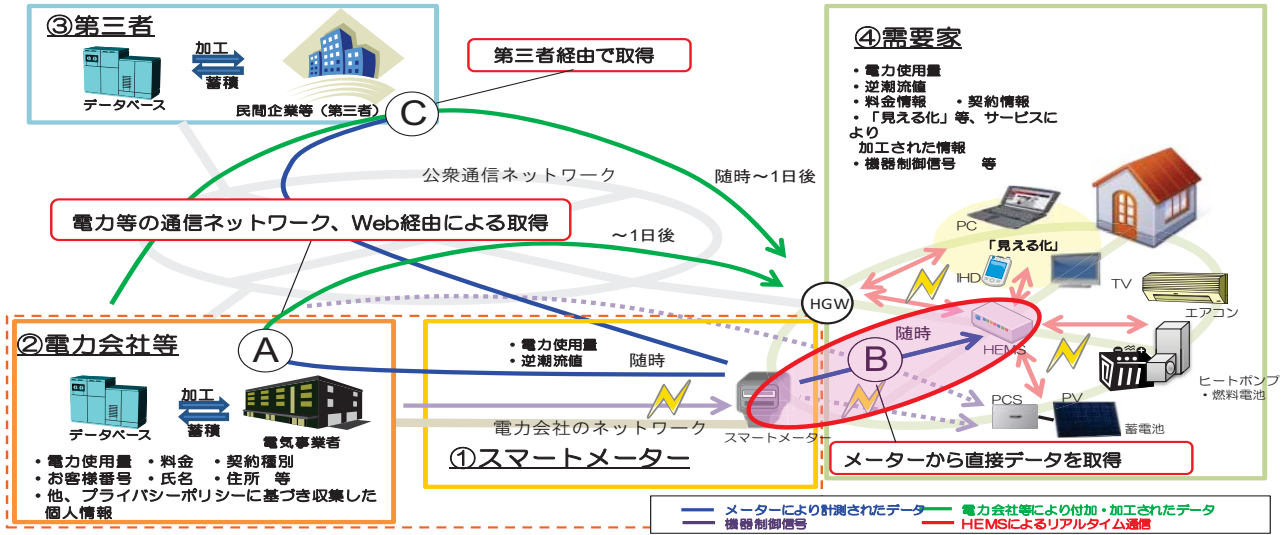
3.HEMS認証支援センターの取り組み —ECHONET Lite ミドルウェア開発者様への期待—

4.最後に(これからのスマートハウス)



スマートハウスの重要なカギとなるECHONET Lite

本年5月15日、スマートメーターとBルートの通信に関するガイドライン策定。
つまりどうなるか
 ⇒これから約5000万世帯にECHONET Lite通信用スマートメータが設置！



出所:平成23年2月17日第10回スマートメーター制度検討会「スマートメーター制度検討会報告書」
http://www.meti.go.jp/committee/summary/0004668/report_001_01_00.pdf



これまでの検討の流れ(1/2)



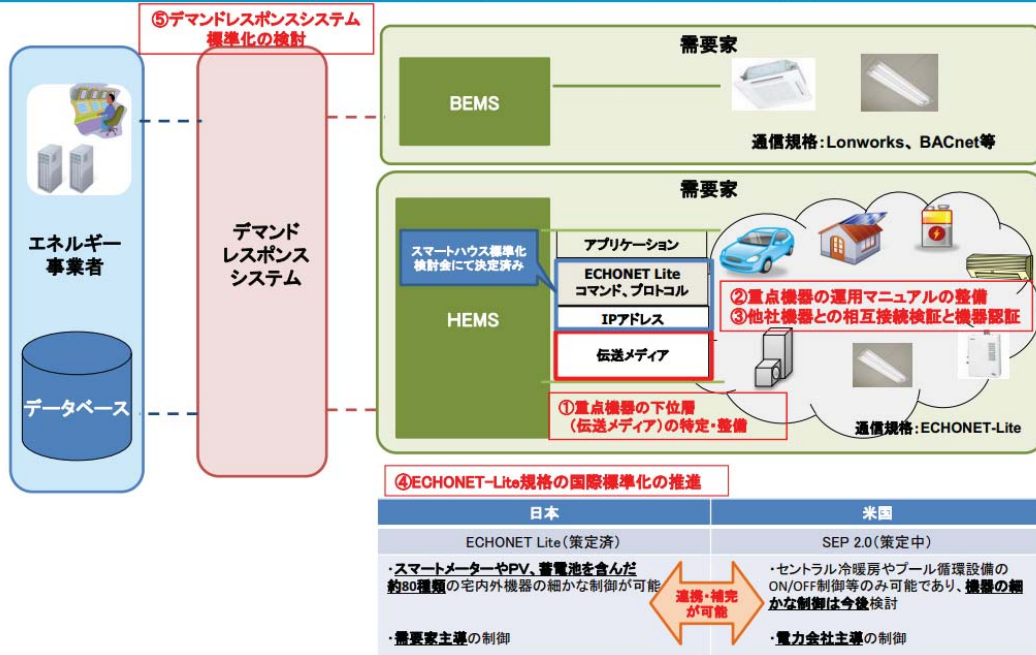
- スマートハウス標準化検討会を設置(副座長一色)
 目的:スマートメーター及びHEMSの標準化推進
- 同検討会の、検討内容を公表
<http://www.meti.go.jp/press/2011/02/20120224007/20120224007.html>
 (主な決定事項)
 1)HEMSの導入と家庭内機器及びHEMSとスマートメーター間の標準
 インタフェースとしてECHONET-Liteを推奨
 2)国内市場への普及と海外市場の開拓のための国際標準化の推進等
- JSCAスマートハウス・ビル標準・事業促進検討会第1回開催
<http://www.meti.go.jp/press/2012/06/20120622010/20120622010.html>
 目的:スマートハウス標準化検討会での決定事項の遂行する上での
 課題に対する工程表の作成や検討の実施。
 (5つの課題)
 (1)重点機器(創エネ・蓄エネ機器等)の下位層の特定・整備
 (2)運用マニュアルの整備
 (3)他社機器との相互接続検証と機器認証
 (4)国際標準規格との融合・連携
 (5)デマンドレスポンス技術・標準の調査・研究

HEMS認証支援センター
 の主なミッション



(参考)5つの課題

スマートハウス・ビル市場普及拡大に向けた相互接続性に係る課題の整理



出所: JSCAスマートハウス・ビル標準・事業促進検討会第1回資料より
<http://www.meti.go.jp/press/2012/06/20120622010/20120622010-2.pdf>



(参考)スマートハウス標準化検討会メンバー

○座長 林 泰弘 早稲田大学 大学院先進理工学研究科 教授

○副座長 一色 正男 慶応大学 大学院/w3 コンソーシアム政策メディア研究科 教授

○委員

＜HEMSスタッフフォーラム＞

- 髙田 美行 パナソニック株式会社(パナソニック電工株式会社)システム開発センター センター長
- 羽深 俊一 株式会社東芝 スマートコミュニティ事業統括部 スマートホーム推進部 部長
- 望月 昌二 三菱電機株式会社 リビング・デジタルメディア事業本部 リビング・デジタルメディア技術部 主幹技師長
- 本林 稔彦 日本電気株式会社 キャリアソリューション事業本部 エネルギーソリューション事業部 統括マネージャー
- 宮崎 達三 日本電信電話株式会社 理事 研究企画部門 チーフプロデューサー
- 石田 建一 積水ハウス株式会社 環境推進部長 兼 温暖化防止研究所長
- 有吉 善則 大和ハウス工業株式会社 総合技術研究所 所長代行
- 西村 真理男 トヨタ自動車株式会社 東京技術部 担当課長
- 近藤 晴彦 日産自動車株式会社 企画・先行技術開発本部 技術企画部 主管
- 時田 要 本田技研工業株式会社(株式会社本田技術研究所)四輪R&Dセンター 第5技術開発室 第1ブロック 主任研究員
- 森 錦司 リンナイ株式会社 開発本部副本部長 兼 商品開発部

【事務局】

- 商務情報政策局 情報経済課
- 電力・ガス事業部 電力市場整備課

【オブザーバー】

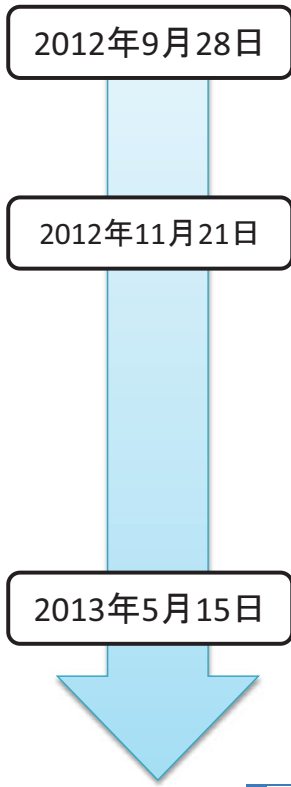
- 早野 幸雄 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構
- 江崎 正 一般社団法人 電子情報技術産業協会
- 山本 恵一 一般社団法人 日本自動車工業会
- 川村 博史 一般社団法人 日本電機工業会
- 平原 茂利夫 エコネットコンソーシアム

＜スマートメータータスクフォーラム＞

- 金井 義和 東京電力株式会社 電子通信部長
- 石原 一志 関西電力株式会社 電力流通事業本部 ネットワーク技術部門 ネットワーク技術部長
- 藤田 祐三 中部電力株式会社 販売本部 配電部長
- 佐藤 昌志 電気事業連合会 情報通信部長
- 小林 俊一 東光東芝メーターシステムズ株式会社 取締役技術部長
- 新野 昭夫 GE富士電機メーター株式会社 マーケット開発部 部長
- 鈴木 淳一 パナソニック株式会社(パナソニック電工株式会社)情報機器R&Dセンター 信号処理研究室長
- 弥栄 邦俊 株式会社東芝 社会インフラシステム社 電力流通システム事業部
- 塚本 幸辰 スマートメーターシステム技術部 グループ長
- 山口 和利 富士通株式会社 エネルギーソリューション本部
- 山口 和利 スマートソリューション事業部スマートネットワークソリューション部 部長
- 松島 徹 日本電気株式会社 キャリアソリューション事業本部 エネルギーソリューション事業部 ICTソリューション部 部長
- 後藤田 信広 株式会社日立製作所 情報制御システム社 電力流通エンジニアリング部 担当部長
- 古沢 肇 東京ガス株式会社 技術開発本部 商品開発部 通信・メーター開発グループ マネージャー
- 竹花 立美 高圧ガス保安協会 液化石油ガス研究所 所長



これまでの検討の流れ(2/2)



■JSCAスマートハウス・ビル標準・事業促進検討会第2回開催

<http://www.meti.go.jp/press/2012/09/20120928004/20120928004.html>

目的: 5つの課題に対する対応状況とスケジュールの確認

■HEMS(ECHONET Lite)認証支援センターが開所

<http://sh-center.org/shrepo/1044>

目的: 課題2&3を解決するため相互接続環境を提供し開発・普及を支援



■JSCAスマートハウス・ビル標準・事業促進検討会第3回開催

<http://www.meti.go.jp/press/2013/05/20130515004/20130515004.html>

スマートメーター-Bルート間の運用ガイドライン策定など、各課題に対する検討状況と今後のスケジュール確認を実施



第3回スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会のポイント

課題	成果	今後について
○重点機器の下位層(伝送メディア)の特定・整備	○公知で標準的な通信方式として、920MHz無線、2.4GHz無線、5.0GHz無線、Ethernet、PLCを特定し、通信方式の詳細仕様(プロトコルスタック)として整理 ※スマートメーターはEthernet、5.0GHz無線を対象外 ○各機器について中小企業を含む参入が可能となる環境の整備	○検討終了
○重点機器の運用マニュアルの整備	○各重点機器に関して運用ガイドライン[第1.0版]を作成	○カスタマーサポートに関しては積み残しとなっているため、引き続き検討を実施する ○EV/PHVに関しては、HEMSと電気自動車充電システム間の必須コマンド定義をエコーネットコンソーシアムと自動車関連業界間で速やかに協議を行い、HEMS-TFの審議を経て運用ガイドライン[第1.1版]として掲載 ○新たに検討すべき項目が現れた場合には、今回の検討・整理の手法を参照し随時検討実施
○他社機器との相互接続検証と機器認証	○当初の予定通り昨年11月21日にHEMS認証支援センターを開所 ※昨年度実績で47社が利用 ○本年1月に開発支援キットを公開し、2月に詳細説明書を公開 ※支援キットのダウンロード実績:平成25年4月末までで220件	○HEMS認証支援センターによる支援を継続 ○今後の体制強化(支援内容の充実、他地域への支援センターの展開)等も見据え、次回検討会までに、中小企業のニーズ等を整理
○国際標準化に向けた動き	○当初の予定通り2012年11月1日に新宿センターを開所 ○ECHONET LiteについてISO/IECへ提案し、国際標準化に向けた作業を進めている	○ECHONET Liteの国際標準化に向け、作業を継続 ○海外におけるECHONET Lite認証センターの年内設立
○DR技術・標準の調査・研究	○DRタスクフォースを2012年11月に立ち上げ ○電力会社とアグリゲータ間の自動DR(ADR)の標準手法について、我が国のユースケースを整理し、米OpenADRをベースに策定 ○今夏、一部の電力会社において新宿実証センターを活用し、試行的に当該手法を導入する	○各電力会社において、ADRの導入に係る検討を加速化し、課題事項を整理する。 (必要に応じて手法を改定)
○事業促進に向けた検討	-	○HEMSを通じて取得した電力利用データを活用した新サービス及び新ビジネスの創出に向け体制を構築し検討を開始

出所: JSCAスマートハウス・ビル標準・事業促進検討会第3回資料より
<http://www.meti.go.jp/press/2013/05/20130515004/20130515004-2.pdf>



第3回会合における重要なポイント-1

ON-OFF以外の情報も必須コマンドになっている

2. スマートメーターBルートからHEMSに提供される情報とコマンド一覧

- 「積算電力量(30分積算値)」「逆潮流値(30分積算値)」「時刻情報」。なお、電力量等に関しては電力会社等の料金算定用データと同じものとする
- 「積算電力量計測値履歴」、「積算電力量計測値(Wh)」、「瞬間電力値(W)」、「瞬間電流値(A)」の提供はHEMS普及による需要家側の省エネ実現において強い社会的要請があるため、しかるべきスケジュールで実施されることをメーター設置業者に要請する
- 提供されるデータは全てECHONET Liteスマート電力量メータークラスのプロパティにおいて定義される(下記参照)
- 瞬時の定義は、ユーザーが情報を取得したい時から遅滞無く当該情報が取得できることを指す。なお、情報取得の遅延に関しては、その情報を活用したアプリケーション(サービス)が適切に利用可能でなければならないが、通信がベストエフォートであることを前提とする。

エコーネット必須コマンド(スマートメーターBルート)一覧 HEMS-TF

プロパティ一覧	EPC	プロパティ一覧	EPC	プロパティ一覧	EPC
動作状態	0x80	状態アナウンスプロパティマップ	0x9D	積算電力量計測値(逆方向)	0xE3
設置場所	0x81	Setプロパティマップ	0x9E	積算電力量計測値履歴(逆方向)	0xE4
規格バージョン情報	0x82	Getプロパティマップ	0x9F	積算履歴収集日	0xE5
異常発生状態	0x88	積算電力量有効桁数	0xD7	瞬間電力計測値	0xE7
メーカーコード	0x8A	積算電力量計測値(正方向)	0xE0	瞬間電流計測値	0xE8
現在時刻設定	0x97	積算電力量単位(正・逆方向)	0xE1	定時積算電力量(正方向)	0xEA
現在年月日設定	0x98	積算電力量計測値履歴(正方向)	0xE2	定時積算電力量(逆方向)	0xEB

出所: HEMS-スマートメーター(Bルート)運用ガイドライン[第1.0版](案)より
<http://www.meti.go.jp/press/2013/05/20130515004/20130515004-5.pdf>



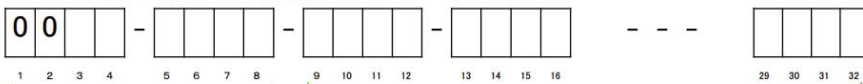
第3回会合における重要なポイント-2

各家庭のスマートメーターにはユニークなIDが付与される

4. Bルート認証IDの定義

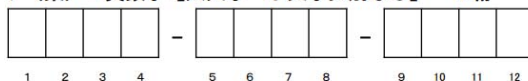
- Bルート認証IDは、ユーザーのスマートメーターBルート利用に当たって、電力会社等メーター設置者においてユーザーの確認、識別を行うために用いられるものであり、代表的な使い方は以下の通り。
 - ユーザー側は、HEMSにBルート認証IDとパスワードを入力することで正しいユーザーであることがスマートメーター側で証明されるとデータ通信が開始される
 - Bルート認証IDについては、ユーザーが引越等で利用電力会社等変更する場合でも混乱をきたさないことを目的に全ての電力会社等メーター設置者が同一のフォーマットを採用する

■Bルート認証ID(案) : 16進数[0~9、A~F] 32桁



8桁目迄: スマートメーター設置 事業者特定領域
 9桁目以降: 自由領域
 3~8桁目: エコーネットコンソーシアム会員メーカーコード

■パスワード(案) : 英数字[大文字・小文字区別なし] 12桁



出所: HEMS-スマートメーター(Bルート)運用ガイドライン[第1.0版](案)より
<http://www.meti.go.jp/press/2013/05/20130515004/20130515004-5.pdf>

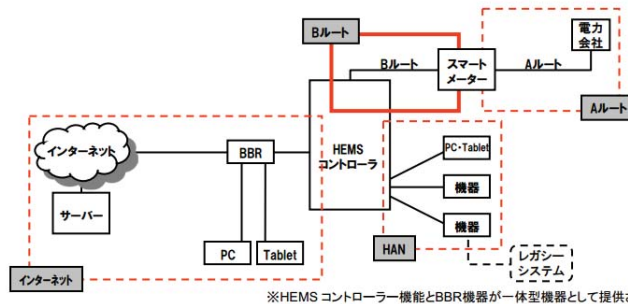


第3回会合における重要なポイント-3

スマートメーターとHEMSコントローラのネットワーク構成の決定

6. ネットワーク構成に関する基本要件

- HEMSサービスの制御の流れを念頭に置くと、HEMS機器と、HEMS-TFが定める主要8機種を中心とした宅内機器との関係はHEMS機器側で統一的にコントロールすべきである。
- また、セキュリティ要件や将来性を考慮して、以下の3つの基本要件を設定する。
 1. IPv6を利用する
 2. ブルートから他のドメインへIPルーティングで接続することは行わない
 3. スマートメーターとHEMSコントローラは1対1の接続形態とする



※HEMS コントローラ機能とBBR機器が一体型機器として提供されることもあり得る 12

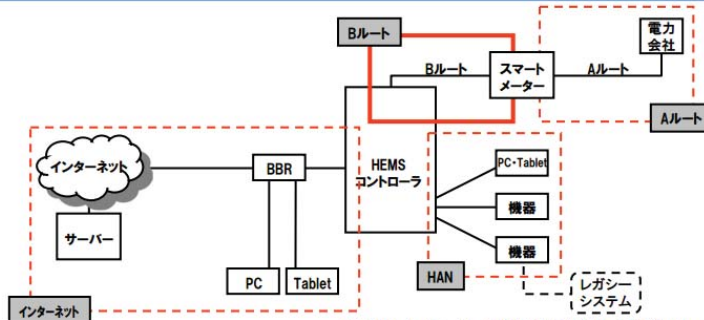
出所: HEMS-スマートメーター(ブルート)運用ガイドライン[第1.0版](案)より
<http://www.meti.go.jp/press/2013/05/20130515004/20130515004-5.pdf>



HEMS認証支援センターは実験環境を提供

9. 認証に関する仕組み

- 機器接続認証に関しては、既存のメディア認証及びエコネット機器認証プロセスを活用する
 - メーターとHEMS間のIoT(機器接続試験)に関しては、神奈川工科大学に設置されたHEMS認証支援センターに実験環境を提供する。各社のスマートメーターを上記センターに設置、持ち込まれたHEMSコントローラとの相互接続実験を実施可能とする
- ブルートのセキュリティ課題(仕様及び運用等)は、必要に応じてスマートハウス・ビル標準・事業促進検討会及びブルートコマンド仕様を管理するエコネットコンソーシアムに通信セキュリティを議論する会議体を編成する(会議体の詳細については、引き続き検討を行う)
 - ブルートの運用に関してセキュリティ上の脅威を検知した場合、メーター及びHEMSの運用に責任を持つ者は、上記会議体と協議・連携し、必要な対策(ブルートの利用停止やファームウェアアップデートの実施など)を実施できるものとする



※HEMS コントローラ機能とBBR機器が一体型機器として提供されることもあり得る 25

出所: HEMS-スマートメーター(ブルート)運用ガイドライン[第1.0版](案)より
<http://www.meti.go.jp/press/2013/05/20130515004/20130515004-5.pdf>



1.はじめに(スマートハウスとECHONET Lite)

2.ECHONET Liteの現状

3.HEMS認証支援センターの取り組み
—ECHONET Lite ミドルウェア開発者様への期待—

4.最後に(これからのスマートハウス)



HEMS認証支援センターの役割

スマートハウス普及拡大に向けた課題への対応

【スマートハウス普及拡大に向けた課題】

- ①重点機器の下位層の特定・整備
- ②運用マニュアルの整備
- ③他社機器との相互接続検証と機器認証
- ④国際標準規格との融合・連携
- ⑤DR技術・標準の調査・研究

(2012年2月スマートハウス標準化
検討委員会の中間取りまとめより)

取り組む課題

- 1)ECHONET Liteを用いた相互接続環境の提供し、他社機器との相互接続検証と、**機器認証の円滑化を図る。**
- 2)現場(住宅)での設置・接続・保守管理等における技術・ノウハウを身につける**教育・研修の場を整備する。**



センターでは教育用SDKを公開しています

HEMS (ECHONET Lite) 認証支援センター HEMS (ECHONET Lite) Certification Support Center

- ・無償配布(商用不可:機能制限有)
- ・商用版は紹介リンクのみでも受付



SDKの一覧・検索・ダウンロード

View/Search/Download SDK

当センターでは皆様からの無料版SDKの提供を受け付けています。こちらを御一読の上、お問い合わせください。
The center accepts your free SDK offer. Please read Terms of SDK Registration and contact us.

CONT コントローラ(ゲートウェイ等) Controller(including Gateway)
 READY レディデバイス Ready Device
 MIDDLE ミドルウェアアダプタ Middleware Adapter
 FULL フルデバイス Full Device
 1~3 / 8

Super Speed Node Generator for ECHONET Lite

SDK ID : 0003 登録日 / Registered Date : 2013. 04. 24. サイズ / Size : 119.7MB

メーカー / Maker : 神奈川工科大学大学院 博士前期課程 電気電子工学専攻 中島義人
 開発言語 / Programming Language : LabVIEW2012 (12.0.1F2)
 ターゲットOS / Target OS : Windows
 ターゲットCPU / Target CPU : Pentium III/Celeron 866 MHz または同等のプロセッサ
 概要 / Summary : Super Speed Node Generator for ECHONET Lite(SSNG)はLabVIEWで開発された実行形式(.exe)のECHONET Lite/ノードジェネレータです。

<http://smarhouse-center.org/sdk/>



SDKの紹介(5月28日時点)

2013年1月からWebサイトオープン。現在3つのSDKを公開中

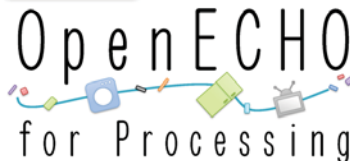
No.1



2013/1/22より公開
DL数: **155件**

開発環境	
開発元:	日新システムズ(株)委託
開発言語	C
ターゲットOS	Linux
ターゲットCPU	INTEL x 86系

No.2



2013/2/27より公開
DL数: **75件**

開発環境	
開発元:	(株)SONY CSL委託
開発言語	Java(Processing)
ターゲットOS	Linux,Windows,Mac
ターゲットCPU	INTEL x 86系

No.3



2013/4/24より公開
DL数: **41件**

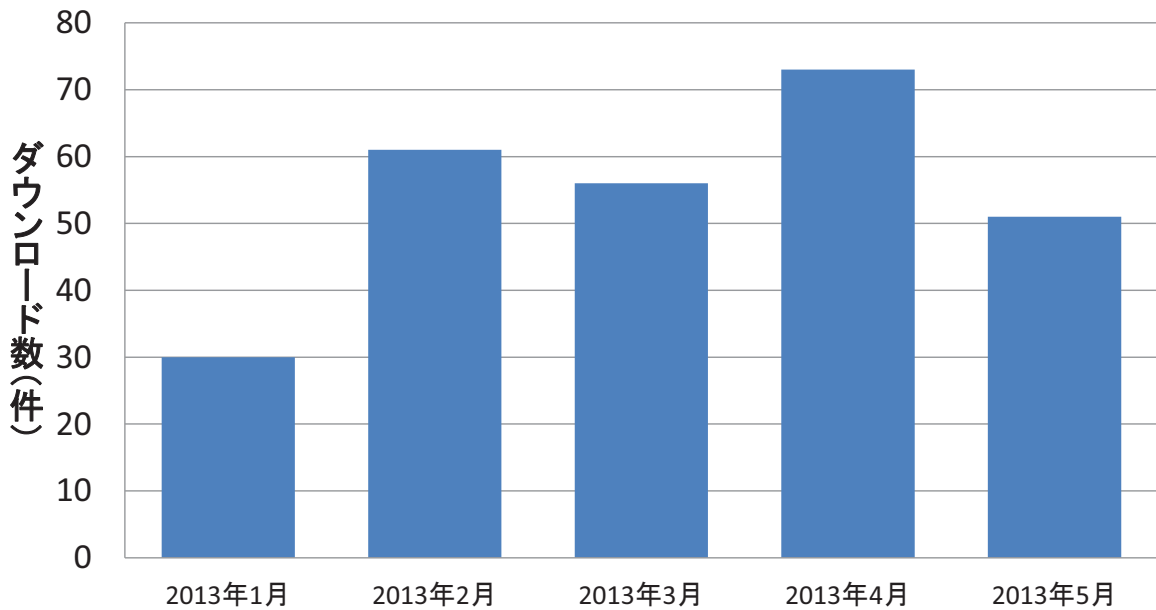
開発環境	
開発元:	神奈川工科大学院生 中島
開発言語	LabVIEW2012
ターゲットOS	Windows
ターゲットCPU	Pentium III/Celeron866MHzまたは同等プロセッサ

http://smarhouse-center.org/#sdk_top



SDKのダウンロード数推移

総ダウンロード数271件。アカウント数も既に90超(登録無料)



2013年5月28日時点



ECHONET Lite通信ミドルウェアの開発を募集

Choose a Language ▶ 日本語 한글 中文 English



Topics | About Project | ASP Kernel | Documents | Community | Report | Contacts

- + 会員向けページ
- + プロジェクトについて
- + 取り組み
- + 開発成果物
- + 教育コンテンツ
- + ドキュメント
- + 関連製品
- + 利用事例
- + コミュニティ情報
- + その他の情報

ソフトウェア開発委託事業

NPO法人TOPPERSプロジェクトでは、2011年度まで公募型事業として、分野等には制限を設けず、TOPPERSプロジェクトの発展に貢献して頂ける分野を対象に開発支援を進めてまいりました。

2013年度からは、TOPPERSプロジェクトが分野を検討し、TOPPERSプロジェクトの発展により貢献できるソフトウェアを開発し、オープンソフトウェアとして公開していくことを目指して、ソフトウェア開発委託事業として開発支援を進めていくことになりました。

2013年度

2013年度ソフトウェア開発委託事業募集のご案内

2013年度ソフトウェア開発委託事業の開発対象分野は、**エコーネットコンソーシアムで規定される「ECHONET Lite」規格に対応した通信ミドルウェア**です。

応募については、TOPPERSプロジェクトの会員、非会員に関わらず応募可能です。また個人もしくは団体、企業での応募が可能です。ただし、非会員の事業が採択された場合には、応募された個人、もしくは団体がTOPPERSプロジェクトの会員になる事を条件とします。開発ソフトウェアはオープンソフトウェアとしてTOPPERSプロジェクトの開発成果物としてTOPPERSライセンス条項に従って公開することを条件とします。

※TOPPERSプロジェクト 開発成果物の知的財産権に関する規則

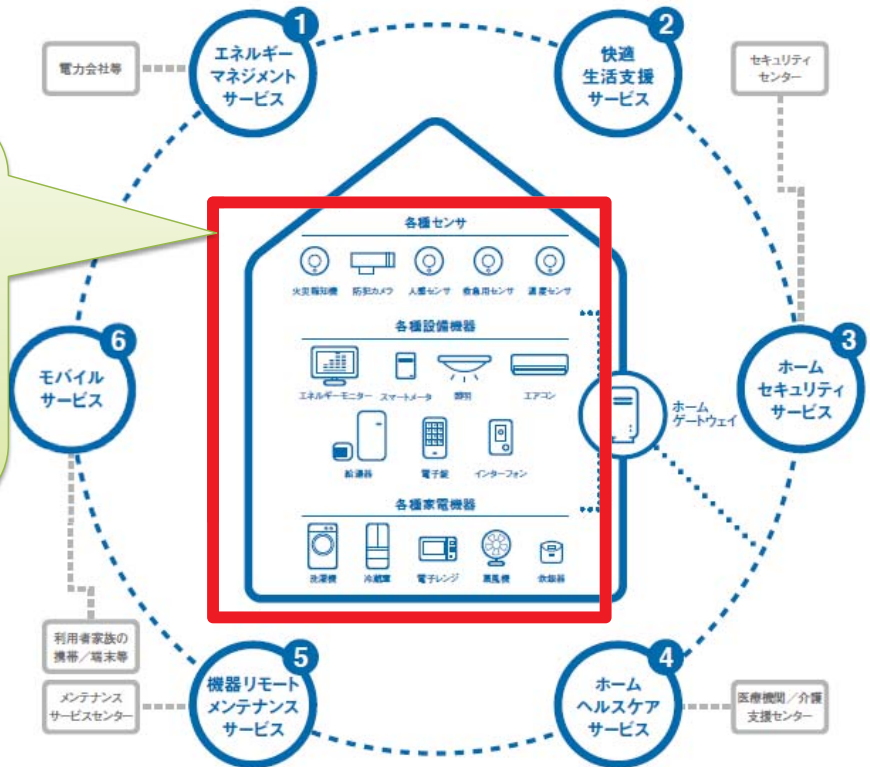
応募締切は、**2013年6月30日**です。詳細は、以下の募集要項をご覧ください。

 [TOPPERSプロジェクト2013年度ソフトウェア開発委託事業募集のご案内](#)



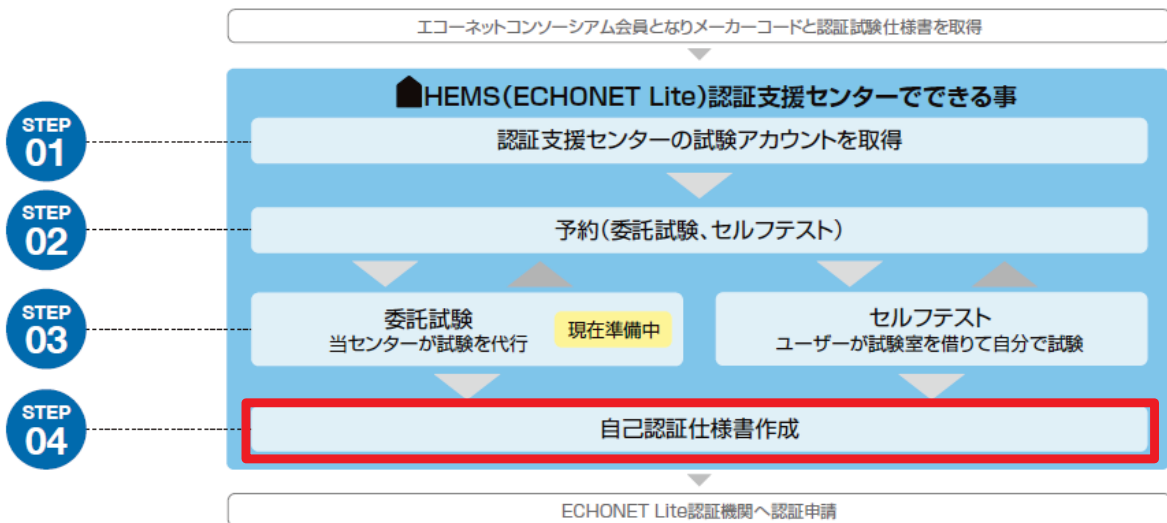
あらゆる機器がネットワーク化する住宅へ

まだ接続できるレディ機器が足りてません。コントローラーと繋がるレディ機器を増やすためにも、ミドルウェアの開発が急務です！



センターでは相互接続環境も整備しています

自己認証仕様書の作成までサポートします



試験室の予約はホームページよりお申し込みください
<http://smarhouse-center.org/>



ECHONET Liteミドルウェアの試験も可能

4種類の相互接続試験のイメージ

● 持ち込んで試験が実施できる機器 ■ Ethernet ■ ミドルウェアアダプタ通信インタフェース

- 1** コントローラ相互接続試験

ゲートウェイ、制御機器等のコントローラを開発されている方が、自社の開発製品を持ち込んで、フルECHONET Lite機器役装置との通信試験を行うことが出来ます。フルECHONET Lite機器役装置は、エアコン・蓄電池・センサーなど全ての機器オブジェクトになることが可能です。
- 2** フルECHONET Lite機器相互接続試験

エアコン・蓄電池・センサーなどを開発されている方が、自社の開発製品を持ち込んで、コントローラ役装置との通信試験を行うことが出来ます。また、フルECHONET Lite機器として接続できるエアコンも整備しています。
- 3** ECHONET Liteミドルウェアアダプタ機器相互接続試験

ECHONET Liteミドルウェアアダプタを開発されている方が、自社の開発製品を持ち込んで、ECHONET Liteレディ機器役装置との通信試験を行うことが出来ます。
- 4** ECHONET Liteレディ機器相互接続試験

ECHONET Liteレディ機器を開発されている方が、自社の開発製品を持ち込んで、ECHONET Liteミドルウェアアダプタ役装置との通信試験を行うことが出来ます。



認証支援センターの利用方法

まずはWebサイトからお申し込みください

<http://sh-center.org/>

HEMS(ECHONET Lite)認証支援センター
(神奈川県立工学教育研究推進機構スマートハウス研究センター)



ECHONET Lite®規格を用いて開発した機器の認証申請支援や、製品開発環境の提供、相互接続環境の提供を行う施設で、2012年11月21日にオープンしました。

※ECHONET Lite 経済産業省傘下のスマートハウス標準化検討会において推奨された、HEMSと接続機器及びスマートメータとの間の標準規格です。

ホーム | お知らせ | 事業紹介 | イベント | 資料 | FAQ

認証支援 Test Support | 開発キット(SDK) Software Development Kit | 広報サイト Public Relations

<特集>
HEMS認証支援センターインタビュー

このページでは、HEMS認証センターの関係者へのインタビューを行い、センターの活動内容やこれからの展望などを紹介していきます。

▶ インタビューリストへ

パンフレット

HEMS認証支援センターのパンフレットが完成しました

▶ パンフレットダウンロード

連絡先

〒243-0292
神奈川県厚木市下町野1030
神奈川県立工学教育研究推進機構
スマートハウス研究センター
館原一棟 311号室
TEL:046-281-9307

お問合せ

- 問合せ

リンク

- 神奈川県立工学教育研究推進機構
- エコネットコンシウム

申し込みの流れ

必要事項を記入し、
アカウントを取得する

Webサイト専用ページにて
試験室や必要機材の予約

センター職員より
日程のご連絡

試験実施



1.はじめに(スマートハウスとECHONET Lite)

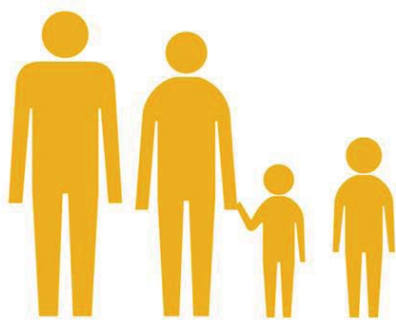
2.ECHONET Liteの現状

3.HEMS認証支援センターの取り組み
—ECHONET Lite ミドルウェア開発者様への期待—

4.最後に(これからのスマートハウス)



スマートハウスで重要なこと



&



(スマート)

住まう人のための

(ハウス)

家

住まう人が主役!



オープンなプラットフォームとしてのECHONET Lite

様々なプレイヤーが相互につながりサービスを創造



ECHONET Lite (公知な標準インターフェース)

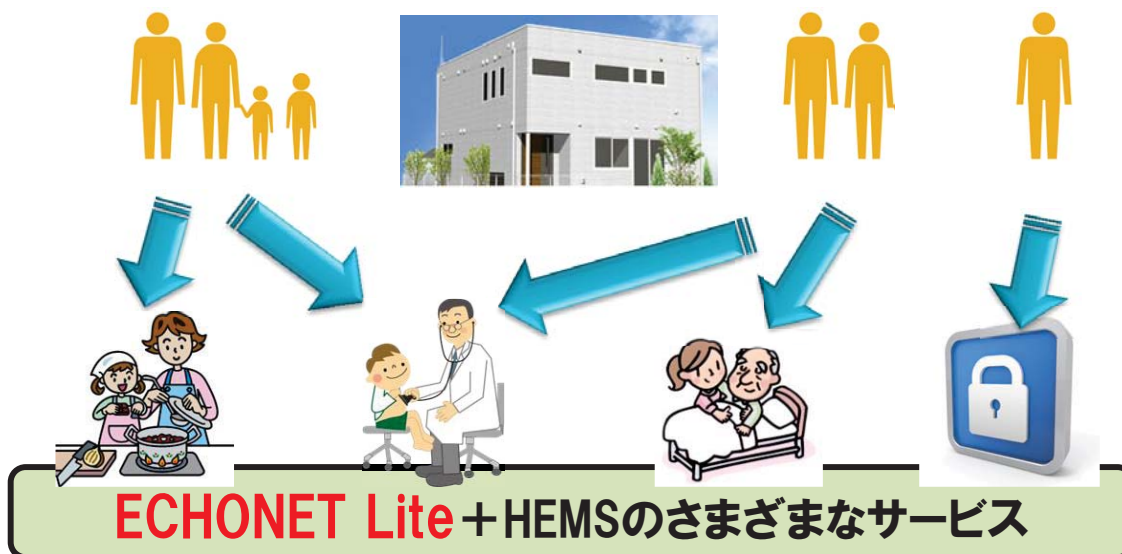
さまざまな家電・設備機器

エアコン、洗濯機、扇風機、蓄電池、照明、太陽光...



ECHONET Liteで創る未来

住まう人がオープンなプラットフォームからサービスを選べる



ECHONET Lite + HEMSのさまざまなサービス



提供できるサービスの一例(1/2)

① エネルギーマネジメントサービス



さっきは電力使い過ぎてたのね

- 電気使用量、電気料金モニター
- エアコン／換気扇／照明／ブラインド協調省エネ運転
- 契約電力デマンド制御

使用電力量が超過しそうな時にサポートするサービス[デマンド制御]

家族みんなが帰宅する夕方、使用電力量が増えてブレーカーが落ちないか心配。どうにかならない?

こんなニーズに応えるサービス

- 家族の帰宅と併に使用電力量が増加
- エアコンの一時、自動停止等で電力量を調整
- 自動切替えてブレーカーの落ちる心配無し

② 快適生活支援サービス



- ブラインド／換気扇／照明の集中操作
- 宅内機器スケジュール運転(予冷、予熱)

寝床から照明／ヒーター操作ができるサービス

夜中トイレに行きたくなくなった際、危ないので予め電灯をつけ、寒いのでトイレ内もヒーターで温めておきたい。また、帰宅直前にトイレ内を暖めておきたい時にも。

こんなニーズに応えるサービス

- 夜、トイレに行くため携帯で照明点灯
- トイレ内を暖めるヒーターもON
- 終わったらセンサー感知で自動OFF

③ ホームセキュリティサービス



- 防火(火災、ガス漏れ、漏電監視)
- 防災(漏水検知、地震対応、凍結防止)
- 防犯(訪問者管理、侵入者防止)

モニター1カ所で就寝前確認[照明／家電機器／施錠]できるサービス

就寝前の電気の消し忘れ／戸締まり点検、家中を見回らないで1カ所で確認したい。

こんなニーズに応えるサービス

- モニター1カ所で就寝前の確認
- 照明消し忘れ確認
- 家電のON/OFF確認
- しっかり確認で我家は安心



提供できるサービスの一例(2/2)

④ ホームヘルスケアサービス



- 健康管理サービス(病院、健康アドバイス会社)
- 高齢者生活ケアサービス
- 在宅医療機器監視・制御

一人暮らし(特に高齢者)を見守るサービス

離れて一人で暮らしている高齢の母がちゃんと生活しているか確認したい。それにももしも倒れたりしたらと心配。

こんなニーズに応えるサービス

- 離れている一人暮らしの母親が心配
- 家電使用状況で生活状況を確認
- 一人暮らしの母親の家に連絡
- 病気で倒れた際にも緊急対応

⑤ 機器リモートメンテナンスサービス



- 宅内機器遠隔故障診断・保守
- 宅内機器運転遠隔コンサルタント

家電機器の故障に迅速に対応してくれるサービス

家電機器の突然の故障で困った時、直ぐに対応してくれる頼れるサービスがあるといい。

こんなニーズに応えるサービス

- 電子レンジが急に故障
- サービスセンターに慌てて連絡
- サービスセンターでモニター情報確認
- 修理に出動

⑥ モバイルサービス



- 宅内機器運転状況遠隔モニター
- 宅内機器遠隔操作、施錠操作
- 訪問者、高齢者生活状況遠隔モニター

外出先からペットの様子を確認できるサービス

長時間外出しなければならぬ時、家にいるペットの事が気になる、家の様子を外出先から確認したい。

こんなニーズに応えるサービス

- 長時間外出時に家にいるペットが心配
- 携帯画面で自宅を確認

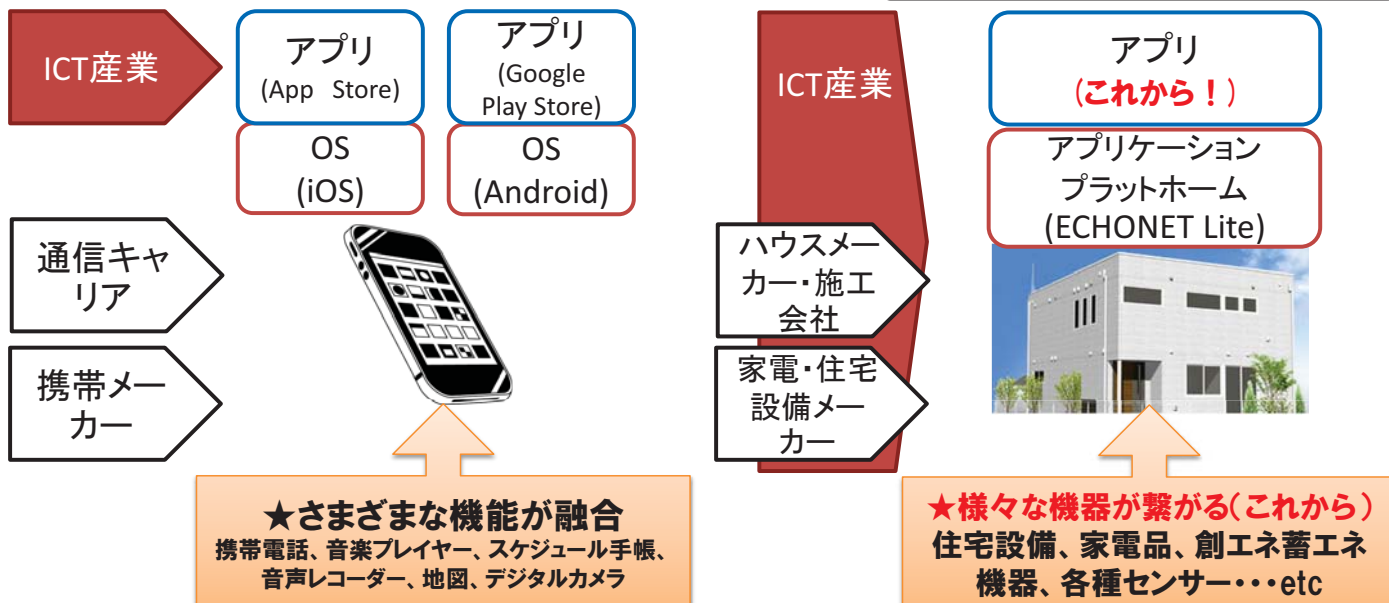


これからのスマートハウスビジネス

アプリ市場はまだまだこれから。成長余地のある市場です。

スマートフォンビジネスイメージ

スマートハウスビジネスイメージ



最後に

全てのECHONET Lite機器が繋がる
世界を実現するためにも
皆さんの協力が必要です。
一緒に始めましょう！
<http://sh-center.org/>

